

http://nakayashiki.net **がんばる日本! 負けなで東北!**



10/15上田知事に平成25年度県政要望書提出

霜月に思う

11年ぶりの取水制限をもたらし、暑い暑い夏も、やっと秋めいてきたなと思つて、うち、いつの間にか、朝晩は少し暖も欲しいなと思わせるときとなりました。

多少のずれはあつても四季の移ろいは必ずやって来ます。が、国政は停滞したまま変化を見せていません。昨日の、「野田、安倍、山口の三党首会談決裂」との報道を目にする、相も変わらずだなどため息が出ます。特例公債法案など国民生活に直接影響のある重要法案をいつたいたうして、いくつもりなのか、腹立たしいを通り越しました。

脱! 党利党略

埼玉県議会
刷新の会
鴻巣支部

なかやしき慎

なかやしき慎一チャレンジ報告

討議資料

チャレンジ通信

2012

9月定例会 主な内容

9月定例会は、33億1573万円の一般会計補正予算のほか、県平和資料館に指定管理者制度を導入する条例改正案、民間譲渡へ向けて奥武蔵あじさい館を本年度限りで廃止する条例案など6件の条例案を含む知事提出10議案と県中小企業振興基本条例の一部を時代の変化に即応したものとす為の改正案を含む議員提出14議案を原案通り可決し閉会した。

補正予算は、さいたまエコタウンプロジェクト推進に向けた先行モデル事業費や本県と佐賀県に認められた、国のハローワーク特区を活用したJR武蔵浦和駅前のビルに新設する就業支援施設の設置費、老朽化した大宮警察署の新都心地域の移転先用地の取得費などを内訳としている。また、尖閣諸島への不法上陸と中国の反日デモに関する意見書や八ツ場ダム本体工事の早期着工を求める意見書など7件の意見書も可決された。

9月定例会は、さいたまエコタウンプロジェクト推進に向けた先行モデル事業費や本県と佐賀県に認められた、国のハローワーク特区を活用したJR武蔵浦和駅前のビルに新設する就業支援施設の設置費、老朽化した大宮警察署の新都心地域の移転先用地の取得費などを内訳としている。また、尖閣諸島への不法上陸と中国の反日デモに関する意見書や八ツ場ダム本体工事の早期着工を求める意見書など7件の意見書も可決された。



発行者
刷新の会 鴻巣支部
県議会議員 中屋敷慎一
〒365-0039
鴻巣市東3-11-18-103号
TEL 048-541-8110
FAX 048-541-0256

わが会派からは、舟橋一浩議員が質問に立ちました。

なかやしきの注目質問

Q 障害者雇用の促進について

Q 法定雇用率の引き上げなど今後さらに複雑化の予想される障害者雇用問題。今まで以上の対応をしていく為には、本県の特筆すべき取り組みである、埼玉県障害者雇用サポートセンターの機能をより一層高めていく必要があると考えるが如何か?

産業界労働部長答弁要旨

A センターの機能の充実は重要で、雇用義務を生じる従業員50人以上の全事業所訪問による徹底指導。障害者と企業の間に入り職場環境の改善等を支援するジョブコーチの活用。情報やノウハウの共有を進めるネットワーキ化を三つの柱とした取り組みを強化して参ります。

「なかやしきの思い」
ロンドンパラリンピックでは数多くの障害者アスリートが大活躍した。しかし、そういう活動もすっかりした雇用があつたればこそだと思つた。ノーマライゼーション意識の高い本県だからこそその本気の取組で、障害のある無しにかかわらずな埼玉を創ろう。

視察報告

平成24年7月24日

地方分権・行財政改革 新都心整備 魅了ある街づくり
特別委員会視察

周産期医療体制の充実について、北海道立子ども総合医療・療育センター（札幌）を視察した。

平成19年に医療部門である小児総合保健センターと療育部門である札幌肢体不自由児総合療育センターを統合して、医療・療育を統合的に提供する施設として開設された。

本県でも、新都心に小児医療センターとさいたま日赤病院を併設した新病院の計画がすすめられている。綿密な連携を図るためにも施設の充実が必要不可欠である。視察時に伺ったが、出来あがってからはもっとこうだったらという事が多々あつた。たそうだ。幾重にもシミュレーションを重ねて行かなければならない。



6月定例会 中屋敷県議の一般質問に答えて

Q 正しい日本語(国語)教育のあり方について

埼玉県では、公文書における漢字使用の周知徹底がされました。

(例) 子ども 子供

9月3日付で本県の公文書に用いる漢字は、私の提案通り、常用漢字表の本表及び付表によるものとし、原則として常用漢字表の漢字で表記することになりました。



Q 障害者の方々にも「埼玉県体育賞」を

ロンドンパラリンピック上位入賞者に「埼玉県体育賞」を贈る準備をすすめています。

県教育委員会によると、現在、埼玉県障害者スポーツ協会が県体育協会に加盟する準備をすすめています。加盟後、「埼玉県体育賞・優秀選手賞」の授与へとつながります。

平成24年9月11日
最先端技術振興
議員連盟視察

独立行政法人 放射線医学総合研究所(以下放射研)(千葉市)を視察した。

放射研は、放射線と人との関係について総合的に研究開発を進める国内唯一の研究機関であり、重粒子医学センター、分子イメージング研究センター、放射線防護研究センター、緊急被ばく医療研究センターの4センターで構成されている。

特に、高度放射線がん治療の

代表である重粒子線がん治療の国内のパイオニアだ。

18年間に6500人以上を治療した実績を持ち、痛くない、苦しくない、治療を施し、短期治療、早期復帰を実現している。

また、小型普及実証機の開発も手掛け、群馬大学医学部病院の設備は放射研によるものだ。本県の新たなセンター病院にも設備出ないものがあるだろうか。



SAITAMA RENEWAL PARTY
 埼玉県議会 **刷新の会** 平成25年度
 予算編成にかかる県政要望書提出



次世代エネルギー、教育、福祉の3つに重点!

地元問題 **鴻巣市** 10月15日各市町村問題を含め276項目の要望書を知事に提出しました。

- 主要地方道鴻巣・羽生線整備事業の促進
- (1) 屈巢地域の歩道整備の継続
 - (2) 国道17号宮地交差点から三谷橋区間の道路整備の早期促進
- 一般県道内田ヶ谷・鴻巣線歩道整備事業の促進
 主要地方道さいたま・鴻巣線の歩道整備事業の促進
 県道鴻巣桶川さいたま線鴻神社前交差点改良事業の促進
 鴻巣停車場線（都市計画道路：駅東通線）の改良及び旧中山道（都市計画道路：鴻巣桶川さいたま線）との交差点改良
 コウノトリの舞う魅力的な地域づくり推進事業
 市内全小学校の自校給食化に伴う栄養教諭及び学校栄養職員の増員

～工事進捗状況のお知らせ～ No.3

元荒川護岸工 昨年度の豪雨などの影響により元荒川の数か所で護岸の法面に崩落などが発生してしまっ。平成22,23年度の2年に渡る新設された安養寺堰上流部分に続き、三ツ木橋下流部と三谷橋下流部の計300mの護岸工事を行う。地域の皆さんの話では、安養寺堰の新設の影響もあるのでは?という事だが、被害の起こらない間に対応したいと思う。

現在、12月初旬(渇水期)をめどに工事に入れるよう準備をしています。



平成24年8月28日 於：マロウドイン大宮
日本から子宮頸がんをなくそう
検診・ワクチンのホントの話

子宮頸がん制圧をめざす専門家会議主催によるプログラム、自治医科大学附属さいたま医療センター産婦人科教授の今野良先生による講演を聞きました。さすがに、各自治体や議員も多いであろう参加者の7割方は女性だったようでした。

毎年約3,500人が命を落としている子宮頸がん。現在日本では約20%程度の検診受診率でしかないらしい。講演では、検診受診率を向上させる工夫とワクチン接種を効果的に組み合わせる事で、子宮頸がん予防は飛躍的に進捗するとの事でした。原因が解明されている子宮頸がん、だからこそ予防が可能だという事だそうです。

我が市でも、ワクチン接種費用を全額助成する施策が講じられていますが、こうした動きを、海外の製薬会社に踊らされているなどと揶揄する向きもあるようですが、この話は「命」という面を最も重要に考えていかなければならないと思います。



平成24年9月24日 於：県議会議事堂
激動する国際情勢と危機管理

9月議会恒例の議員政策研修会が、講師に帝京大学教授の志方俊之先生を迎えて開かれました。先生の自衛隊時代の経験や防衛大臣補佐官の経験に裏打ちされたお話しは、説得力を伴い大変興味深く拝聴しました。特に、「世の中には、費用対効果で考えていけないものが少なくとも三つある。それは、「教育」「先進科学開発」「防衛」である。効果は10年も20年も先に出てくるものであるし、いま手を抜けば、その時点で「取り返しのつかない事態になる。」という先生の見解には私も全く同意見です。近隣の国際情勢を考えると、何とかして平和ボケ的な国民感情を変えて行かないと、大変なことになるのでしょうか?と思っています。



平成24年9月29日 於：埼玉教育会館
「自殺のない社会をめざして」
 ～いま私たちにできること～



埼玉弁護士会主催のシンポジウムに参加しました。年間3万人以上の自殺者がつづいている我が国ですが、国の自殺対策基金事業の効果もあり、ここ数年は対前年比については減少しているものの、依然として3万人は下回っていません。シンポジウムでは、自殺を試みた経験のある2人の体験談を聞きましたが、自殺という行為が、それぞれの人々の遠くにある訳では無い事を伝えていたように思いました。

シンポジウムの中で私が一番共感したのは、NPO法人自殺対策支援センターライフリンク副代表の根岸氏の語っていた、「自殺対策は、啓発の時期を過ぎ、あらゆる機関、団体、個人の連携による、実践的対策の時期を向かえている。」という言葉でした。

埼玉県でも、地元鴻巣でもこの問題への取り組みを強化して行きたいと思っています。

埼玉県議会 刷新の会 鴻巣支部
中屋敷慎一事務所

〒365-0039
 鴻巣市東3-11-18-103号
 TEL 048-541-8110
 FAX 048-541-0256

E-mail ✉
 challenge@nakayashiki.net
 県議会へのご質問、ご意見、ご要望 承っております

編集後記

野田総理が「近いうち」の解散を明言したのは確か8月だったように記憶している。自民党も安倍新総裁の誕生など政党の内部には変化も見えるが、国民から見た政治状況には全く変化がない。今の状況は、まるで、政治が国民生活を人質にとって与野党間で責任を押し付け合っているようだ。政治が真に国民を思い国民のためにあるならば、もはや「話し合い解散」しか手立てはないでしょう。 慎一